

5. 履修対象者の要件

(大分県立看護科学大学大学院資料)

入学要件等

2年間の医学教育を
効果的・効率的に進めるために

- ・ 5年以上の看護職としての臨床経験
- ・ 入学試験(筆記(80%)および面接(20%))
総合問題
看護に関する総合的な知識
- ・ 長期履修制度の活用

平成20年度入学生	3名	2年次生
平成21年度入学生	5名	
平成22年度入学生	6名	
		1年次生

18

(日本看護協会資料)

特定看護師(仮称)養成 調査
試行事業実施課程

対象は認定看護師としての実践経験5年以上をもつ者

既に履修済みの認定看護師教育課程の教育に240時間を追加した教育プログラム

6

○入学要件は看護師としての臨床経験5年以上。入学試験として筆記試験、面接試験を行っている。

○現場で求められている役割をしっかりと理解し、行動できるようになるには、臨床経験が5年は必要。5年経験者と経験のない者とでは実践力がかなり違う。そのため、臨床経験5年以上を対象者としている。

6. 教育・研修内容

(東京医療保健大学大学院資料)

平成22年度授業科目・単位・時間数 学習進度

授業科目	単位	1単位 の時間数	必修	1年次 の時間数	履修年次																									
					1年次													2年次												
					4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3		
クリティカルNP特論	2	15	30																											
解剖生理組織学	2	15	30																											
臨床薬理学特論	2	15	30																											
病態学特論	2	15	30																											
診察・診断学特論 (包括的健康アセスメント実習)	2	15	30																											
臨床推論と疾病病態 (フィジカルアセスメント実習)	2	30	60																											
スキルミックス実践Ⅰ (検査におけるスキルミックス実践)	1	15	15																											
スキルミックス実践Ⅱ (診断におけるスキルミックス実践)	2	15	30																											
スキルミックス実践Ⅲ (治療におけるスキルミックス実践)	2	15	30																											
スキルミックス実践Ⅳ (診断におけるスキルミックス実践実習)	2	30	60																											
スキルミックス実践Ⅴ (検査におけるスキルミックス実践実習)	1	30	30																											
スキルミックス実践Ⅵ (治療におけるスキルミックス実践実習)	3	30	90																											
統合実習 (スキルミックス統合実習)	12	45	540																											
スキルアップ実習 (看護マネジメント実習)	2	45	90																											
専門職と看護倫理	2	15	30																											
インフォームドコンセント特論 (コンサルテーション・インフォームド コンセント特論)	1	15	15																											
チーム医療とスキルミックス	2	15	30																											
医療安全特論	1	15	15																											
政策医療特論	2	15	30																											
学習援助論	2	15	30																											
保健医療福祉システム論	2	15	30																											
病院経営論	2	15	30																											
研究の進め方	2	15	30																											
原稿論文講義	2	30	60																											
課題研究	3	30	90																											
合計	52	4																												

修得する医行為とカリキュラムとの関連

診療・包括的健康アセスメントの場合

講義

演習

実習

診療診断
1) 病歴の取り方
2) 診察の方法 (フィジカルアセスメント)
3) 診察に伴う検査の必要性と判断
① 胸部X線・超音波検査と読影
② 血液ガス分析の必要性と解釈
臨床推論
1) 臨床推論の実践
① 発熱
② 胸痛
③ 腹痛 など

診療・診断の実践
1) クリティカル領域で遭遇する症状における事例での診察・診断の実践
① 腹痛
② 発熱
③ 意識障害 など
検査の解釈と実施
1) 症例のX線・超音波の読影
2) 動脈採血の方法とシミュレータを用いての実施

統合実習
＜統合診療科の実習＞
2単位
1) 患者に応じたフィジカルアセスメント等を実施し、包括的に健康をアセスメントできる。
実習前OSCE試験
1) クリティカル領域で遭遇する事例でフィジカルアセスメント等を実施し、包括的に健康をアセスメントする。

修得する医行為とカリキュラムとの関連

人工呼吸器のウィニングと換気、気管挿管の場合

講義

演習

実習

病態生理
肺の生理からみた呼吸管理
呼吸器に関する課題
1) COPD急性増悪 (人工呼吸器含む)
2) 肺炎
3) 喘息症状の管理
4) 病態に応じた人工呼吸器の使用
① 換気障害
② 低酸素

治療に必要な技術
1) 呼吸管理の技術
① 人工呼吸器の基礎的理解
② 人工呼吸器装着中の患者の離脱の時期の判断
③ 気管挿管・換気の方法
④ 気管挿管の実践 (シミュレータによる)
シミュレーション
「クリティカルな事例が変化を起した時の患者の状況判断とその対応」
例 術後患者の人工呼吸器離脱場面 など

統合実習
＜ICUの実習＞2単位
① 人工呼吸器を装着した患者の状況を包括的にアセスメントする。
② 医師の指示に基づき患者の離脱と換気の時期を判断し、実施する。
＜最新演習＞2単位
① 手術患者の状況を包括的にアセスメントする。
② 手術患者の気管挿管のリスクを把握し、患者に適した挿管を実施する。

(大阪府立大学大学院資料)

課程2年間のスケジュール

学期	前期										後期			
	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
博士前期課程 1年次		共通特論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ												
		生体情報論												
		理論看護学												
		看護学研究法												
		看護倫理学												
		家族看護学												
		看護管理特論Ⅰ												
		がん看護学特論						がん看護学援助特論						
		がん看護学演習ⅠB						がん看護学演習ⅡB						
											がん看護学 課題研究			
博士前期課程 2年次		がん看護学実習												
		＊職種横断のケーススタディ演習 ＊SPを用いた職種横断の臨床課題演習												
		がん看護学 課題研究						がん看護学課題研究						

17

模擬患者(SP)を用いた職種横断的臨床課題演習

担当者 13名(医師、がん看護CNS、がん専門薬剤師、家族支援CNS、看護学部教員、薬学部教員)

授業目標

- がん診療におけるチーム医療の必要性を理解する。
- オンコロジーチームにおける腫瘍内科医の役割と機能を理解する。
がん看護専門看護師の役割と機能を理解する。
がん専門薬剤師の役割と機能を理解する。
- オンコロジーチームの理想像を展望する。

授業内容

多職種の学生及びSPと共に、他職種の立場に立ってがん患者とのコミュニケーションに関するシナリオを作成する

ロールプレイを行う

がん診療に携わる他職種の役割と機能を理解する

がん診療におけるチーム医療のあるべき姿を学習する

関わりの場面:

- 再発告知
- 薬物の副作用への対応
- 積極的治療から緩和医療への移行
- 抗がん剤を変えよときの対応
- 代替療法を望む家族との対応、等

修得する医行為とカリキュラムとの関連

症状アセスメントおよび緩和治療薬の選択と投与

講義

演習

実習

症状アセスメントに必要な知識・技術
1) がんの病態生理、治療
2) 症状の発生機序、増強・緩和因子、
3) アセスメント方法、技術
緩和治療薬の知識
症状緩和治療薬の薬理作用、薬物動態、投与方法禁忌、副作用

症状アセスメント技術の向上
シミュレータを用いたフィジカルアセスメント
症状アセスメントの実施
苦痛症状のアセスメント
① 痛み
② 悪心・嘔吐
③ 便秘・下痢 など
緩和治療薬の選択と投与の実施
1) 適切な薬剤を根拠に基づき選択
2) 薬剤を安全・確実に投与

実践実習
患者の苦痛症状について適確にアセスメントを行い、患者にとってより効果的な緩和治療薬を選択し、投与する

修得する医行為とカリキュラムとの関連

化学療法有害事象の管理と処置

講義

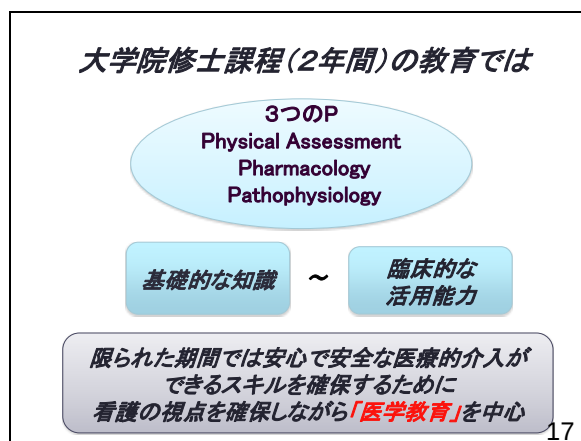
演習

実習

化学療法に関する基礎知識
1) がんの分子生物学的特徴、腫瘍免疫
2) 化学療法の種類と作用メカニズム、薬物動態
3) 化学療法による有害事象
有害事象の管理と処置の知識と技術
1) アセスメント
2) 予防・対処方法

有害事象のアセスメントの実施
1) 患者に施行されるレジメン、患者背景からの予測
2) 実際に起こっている有害事象の程度の把握
有害事象の予防・対処方法の実施
1) 予防的な患者教育
2) 苦痛緩和策の考案・実施

実践実習
化学療法を受ける患者の有害事象に関するアセスメントを実施し、有害事象の予防および苦痛緩和のための方策を考案し、実施する



カリキュラム(45単位以上)

必須科目	31	選択科目	8
NP論	1	健康増進科学特論	2
フィジカルアセスメント学特論	2	看護管理学特論	2
臨床薬理学特論	2	看護コンサルテーション論	2
診察・診断学特論	2	看護教育特論	2
病態機能学特論	2	看護理論特論	2
老年NP特論	2	看護倫理学特論	2
老年疾病特論	2	看護政策論	2
老年アセスメント学演習	2	看護研究(必須)	6
老年薬理学演習	2	原書購読演習	2
老年NP実習	14	研究の進め方の基礎	1
		課題研究	3

19

	科目名	高度実践 看護師科目	特定看護師(仮称) 養成のための 追加科目
教養科目	哲学的人間論、臨床疫学等	4 60	
共通科目	実践看護論、看護学研究法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	4 60	
分野別 共通科目	看護と保健政策、看護コンサルテーション、看護倫理、看護管理看護教育、ベッドサイドの臨床薬理 看護ヘルスアセスメント	8 120	
	臨床判断過程論		2 30
専門科目	小児健康生活論・母性健康生活論・小児看護援助論	6 90	
演習	小児看護方法論Ⅰ・Ⅱ 看護実践研究 小児身体アセスメント・小児発達判断過程論	6 180 (+120)	2 60
検討科目	小児臨床薬理学・小児臨床判断過程論		4 60
実習科目	実践演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	6 270	
	実践演習Ⅳ		2 90
	計 45単位(810時間以上)	34 780	+11 +240

4

○(東京医療保健大学大学院の教育・研修内容について) 総合診療科のコモン・ディージーズの症候論では、鑑別診断の中で非常に頻度の高い疾患から、まれな疾患まで必ず含まれ、これを看護師に教育する予定である。

○フィジカルアセスメントに関する科目や演習は、救急などの急性期分野だけではなく、在宅の分野でも役立つ科目である。

○大学院教育とする必要性は、患者の症状マネジメントや、検査の考え方、EBMの実践やどのようにガイドラインを適用するのかなど、臨床判断の教育が必要となるからだと思う。

○限られた期間の教育であるため、安心して安全な医療的介入ができるスキルを確保するためには、看護の視点を盛り込みながら「医学教育」が中心となる。

○従来の教育ではアセスメントでとどまっていたが、今回の教育では、臨床のアセスメントに判断を加えた内容としている。判断に関しては、病態の判断、状態の判断、生活能力の判断、そして、今ここで看護師が何をしなければいけないのかという、いわゆる介入に関しての判断を的確にしていけるという部分を学ぶ。

○訪問看護における医行為のニーズというのは非常に高い。提案されている教育は、現在働いている訪問看護師が受けられるカリキュラムなのか。養成に時間がかかるのではないのか。訪問看護をやってきたという実績が評価されたり、あるいは、教育の中で訪問看護の現場を活用できれば良い。